

徒歩帰宅支援マップ 東海市版

この地図は、南海トラフ巨大地震等の地震が発生した場合、又は東海地震の警戒宣言が発せられた場合等で、公共交通機関が停止した場合に、徒歩で帰宅する方を案内するために作成しました。

この地図には、道路について記載してありますが、記載してある道路が安全であることを保証するものではありません。

通行の際には、各自で安全に注意して通行してください。

地震発生時又は警戒宣言時は、

- ブロック塀や不安定な自動販売機などに近づかない。
 - 窓ガラスや看板等が破損して落ちてきそうな建物には近づかない。
- など、安全確保に十分注意してください。

警戒宣言時の対応(強化地域内)

地震防災対策強化地域内の鉄道、バス、タクシー等は基本的に運行が停止されます。

鉄道・地下鉄

- 強化地域内への進入を禁止、最寄りの安全な駅に停車。
- 震度6弱未満、津波なしの地域では、安全に運行可能と判断した場合は、運行継続可

鉄道運行停止箇所

- 名鉄常滑線：全線
- 名鉄河和線：全線
- 名鉄空港線：全線
- 名鉄知多新線：全線
- JR武豊線：全線
- JR東海道本線：尾張一宮より東京方面

※JR新幹線について、名古屋駅より新大阪方面は運行継続

※鉄道の運行状況が変わることもありますので、ご注意ください。

AEDの使い方

電源を入れる

自動的に電源の入る機種もあります。

電極パッドを胸に貼る

貼る位置は電極パッドに描いてあるとおりにします。皮膚が汗等で濡れていたらタオル等で拭き取ってから貼ってください。

心電図解析中

電気ショックの必要性はAEDが判断します。

ショックボタンを押す

誰も傷病者に触れていないのを確認してから、点滅しているショックボタンを押します。

以後はAEDの音声に従います

●注意点と対処法●

- ①胸が濡れている → 拭いてから使用
- ②胸部に貼布薬がある → はがして拭いてから使用
- ③医療器具が胸に埋め込まれている → 離して使用

AEDは、市内の市民館や保育園、小中学校などの公共施設に設置されています。

応急手当

出血している人を見かけたら……

直接圧迫止血法

- 出血している場所を、きれいなガーゼやハンカチ等で強く押さえてしばらく圧迫する。
- 感染防止のため、できるだけビニール手袋やビニール袋を使用し、血液に直接触れない。
- 包帯や三角巾があるときは、ガーゼやハンカチの上から少しきつめに巻く。
- できるだけ、傷口を心臓より高い位置に保つ。
- 神経や筋肉を痛めるため、細い紐や針金は使わない。



間接圧迫止血法

- 直接圧迫止血法で止血できない場合、傷口に一番近い止血点(傷口より心臓に近い動脈)を指で強く圧迫する。

止血帯法

- ひじから肩までの腕と、ひざからそけい部までの足に限り、直接圧迫止血法では止血が困難な場合に行う。
- 専用の止血帯がない場合は、幅3cm以上のネクタイ、スカーフ、ベルト等を使用する。
- 止血帯をゆるめに結び、当て布を置く。
- 止血帯と当て布の間に棒を入れ、手で当て布を押さえながら、止血するまで棒を静かに回し、棒を固定する。
- 神経まひや壊死を防ぐため、30分に1回、棒をゆるめ、血流の再開を図る。

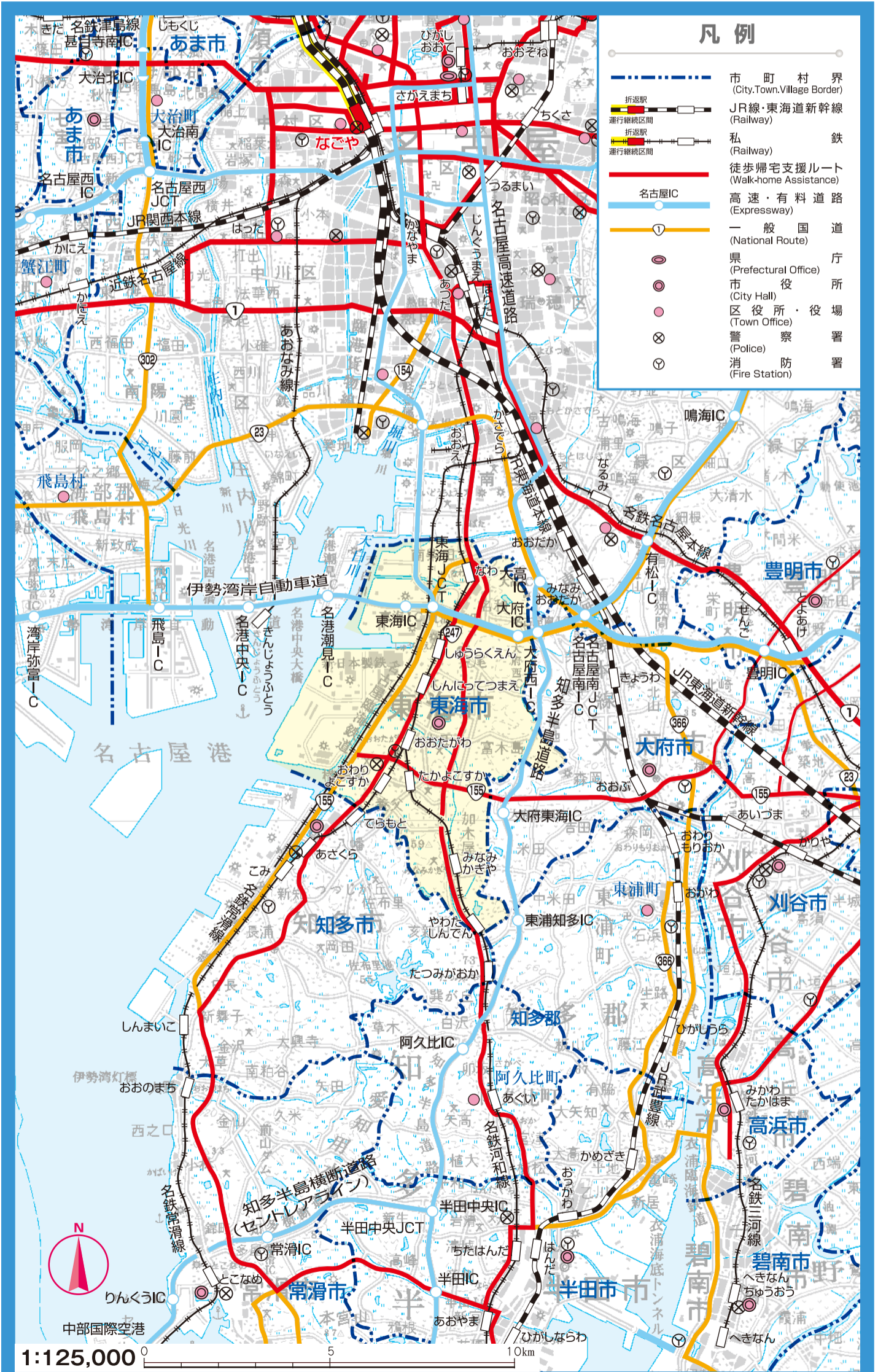
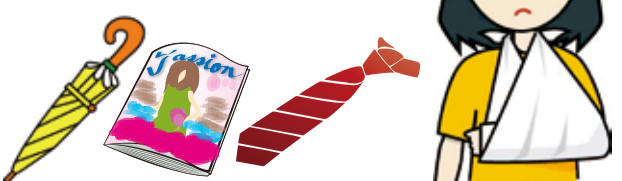
骨折している人を見かけたら……

骨折

- 傷口がない皮下骨折は、痛めた部位の骨を押して強い痛みがあれば骨折の可能性がある。
- ケガをしたという覚えがなくても、痛みが続く場合は、骨折の可能性がある。
- 骨折を疑う症状がみられたら、なるべく早く整形外科に受診し、適切な処置を受ける。

骨折の応急手当

- むやみに動かさず、安静な状態にする。
- 体を冷やさないよう、毛布、上着等をかける。
- 患部は氷のう等でできるだけ冷やす。
- 添え木には、傘や雑誌等骨折部分の大きさに合ったものを選ぶ。木片を使用する場合は、柔らかい布やタオル等で木片を包む。
- 患部に添え木を当て、三角巾やネクタイ、包帯等長いもので固定する。
- 骨折部分が変形していても、無理に伸ばさず、そのまま固定する。
- ねんざか骨折かわからないときは、骨折しているものとして手当てする。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平25情復、第838号)
この地図を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の承認を得なければなりません。